

表 7に漂着したボトルから得られた情報を整理した。

表 7 発信機付漂流ボトルの漂着事例 一覧

事例 番号	放流 河川名	漂着推 定時刻	漂着場所	漂着位置 緯度	漂着位置 経度	漂流時間 (時:分)	漂流距離 (km:積分値)
1	鈴鹿川	1月7日 10:00	鈴鹿川河口	34-55-37.0	136-38-46.0	02:00	0.5
2	鈴鹿川	1月7日 10:00	鈴鹿川河口	34-55-36.8	136-38-45.0	02:00	0.6
3	鈴鹿川	1月7日 10:00	鈴鹿川河口	34-55-36.6	136-38-42.0	02:00	0.7
4	宮川	1月8日 03:30	答志島	34-31-04.6	136-52-12.0	17:15	18.5
5	宮川	1月8日 11:40	坂手島	34-29-24	136-51-50.0	25:25	22.7
6	宮川	1月8日 12:30	答志島	34-31-04.4	136-52-13.0	26:15	18.7
7	安濃川	1月9日 17:00	答志島	34-32-19.8	136-54-01.0	58:00	48.6
8	中の川	1月9日 23:30	答志島	34-31-57.6	136-53-13.0	62:15	51.7
9	安濃川	1月9日 23:30	答志島	34-32-12.8	136-53-44.0	64:00	49.4
10	中の川	1月10日 04:00	答志島	34-32-18.4	136-53-45.0	66:45	56.2

図 9 には各漂流事例の漂着位置と漂着位置近傍での漂流経路を示した。

鈴鹿川河口にて放流した発信機付漂流ボトル 3 本は、何れも放流後 2 時間で河口より約 500m 南下した岩礁域に漂着した。

答志島には合計で 6 本の発信機付漂流ボトルが漂着した。6 本の放流河川別の内訳は、中の川が 2 本、安濃川が 2 本、宮川が 2 本であった。

その他に、坂手島において宮川で放流した発信機付漂流ボトルが 1 本漂着した。

図 10~図 15には放流当日の 1 月 7 日から 1 月 12 日までの各ボトルの漂流経路を示した。

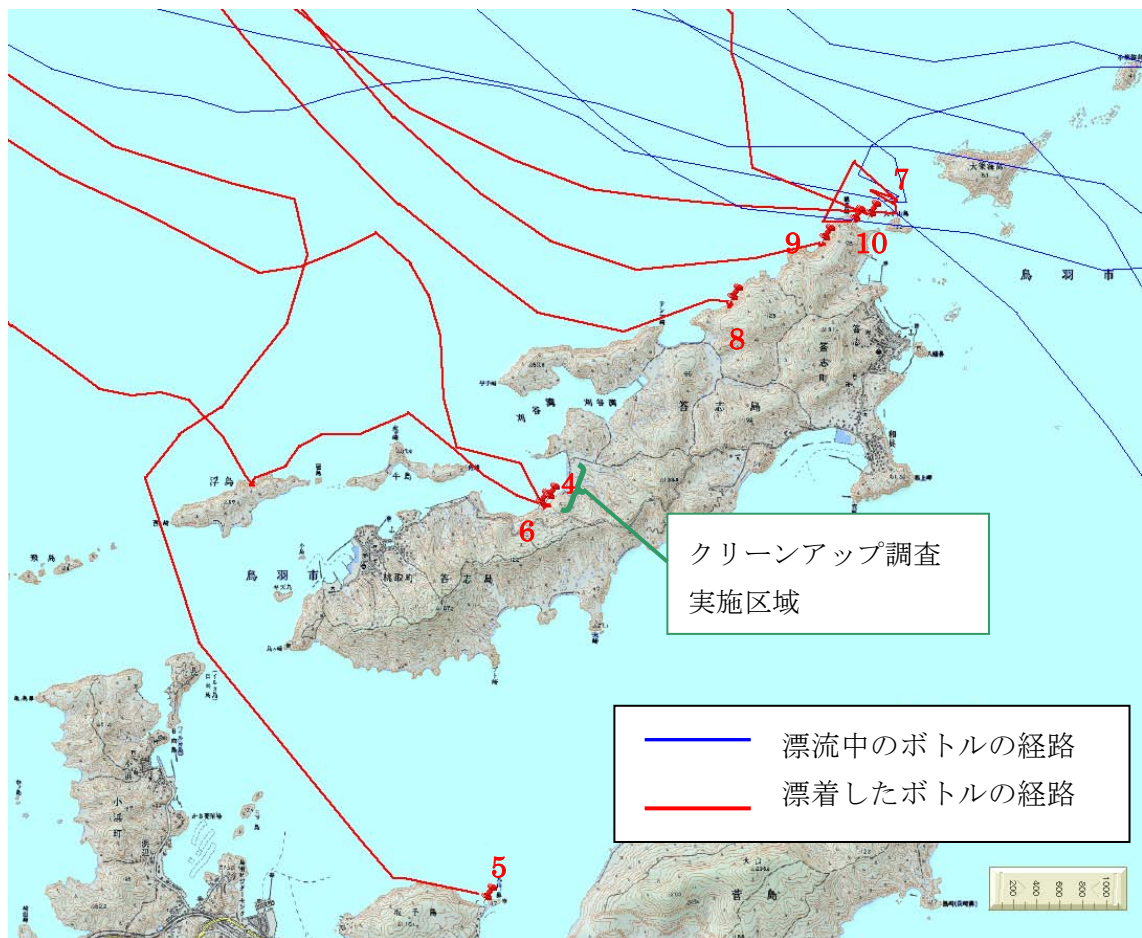


図 9 発信機付漂流ボトルの漂着位置と漂着位置近傍での漂流経路

(図中の数字は表 6 中の事例番号を示す)

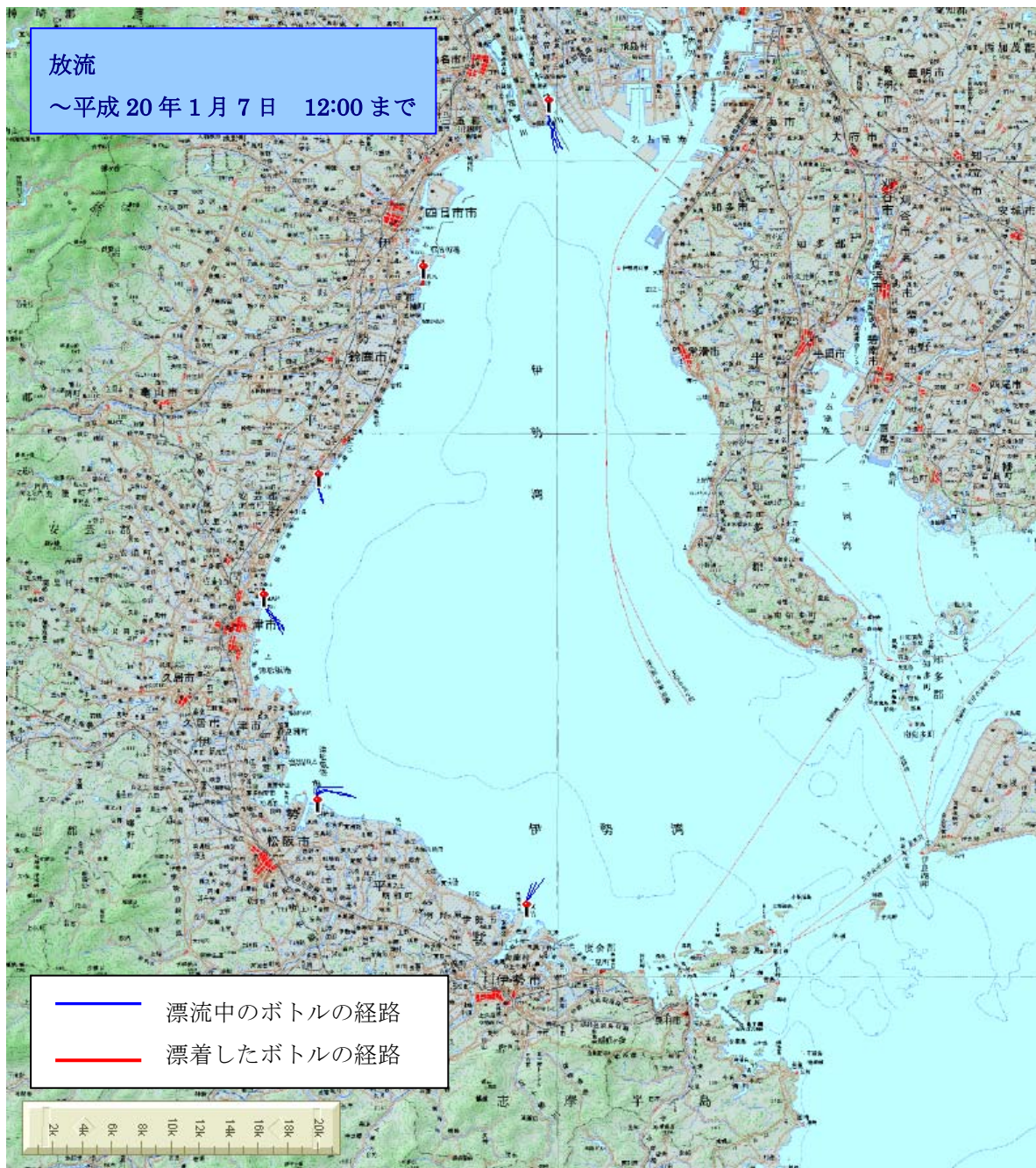


図 10 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路  
(放流直後~平成 20 年 1 月 7 日 12:00 までの経路)

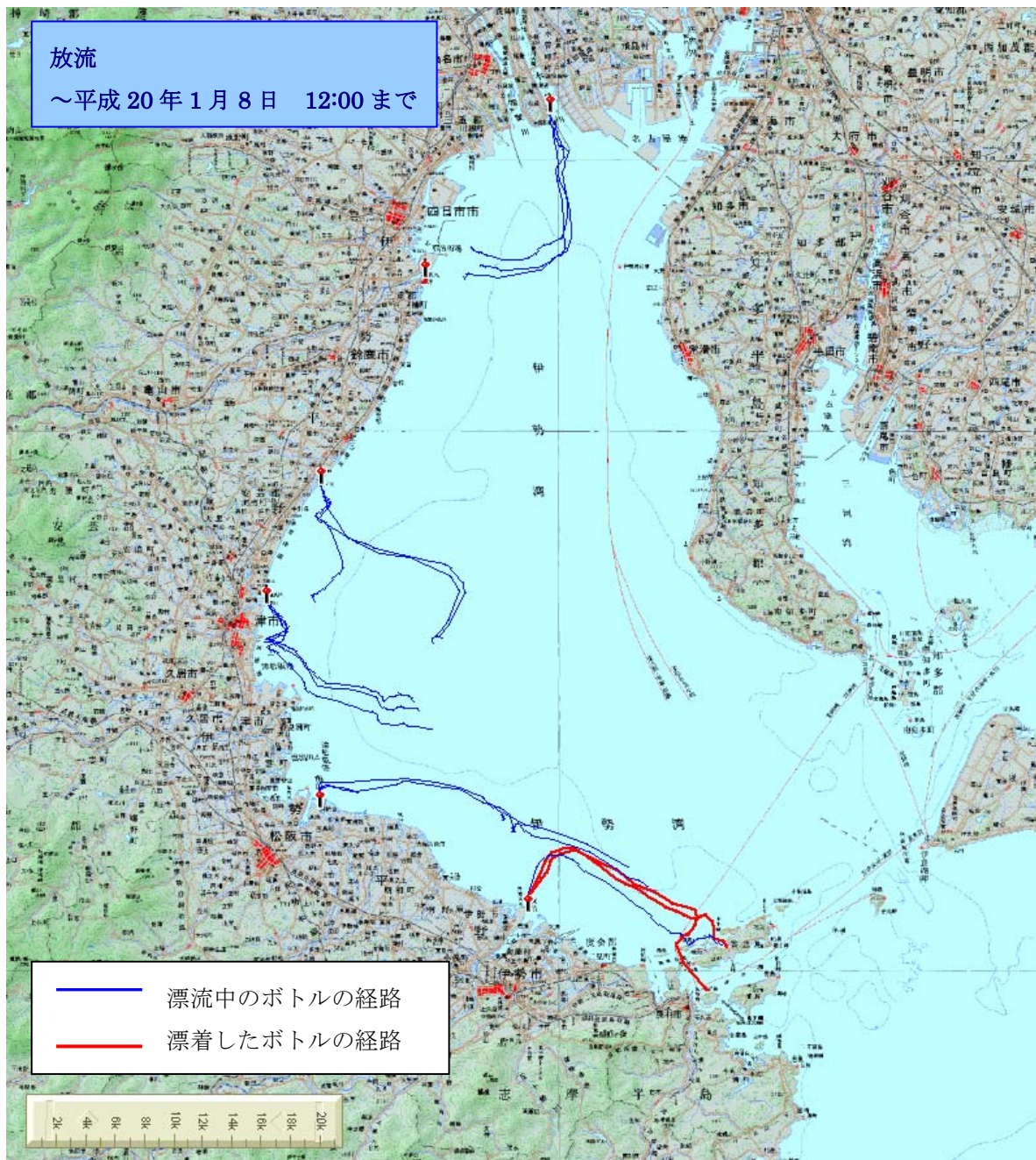


図 11 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路  
(放流直後~平成20年1月8日12:00までの経路)

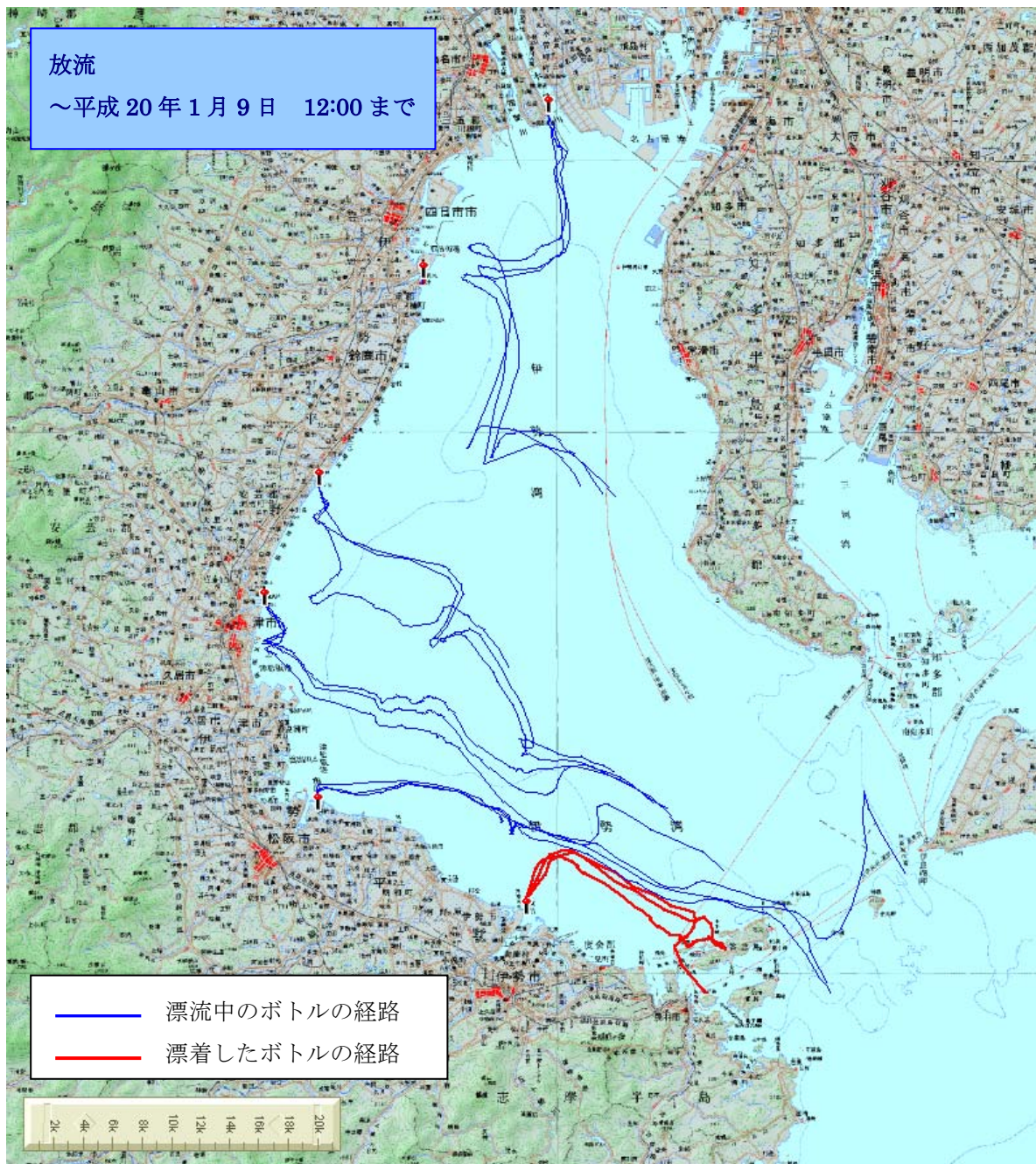


図 12 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路  
(放流直後～平成 20 年 1 月 9 日 12:00 までの経路)